

平成30年度学校保健統計調査結果【速報】

大阪府総務部統計課 勤労・教育グループ

《 詳細は大阪府ホームページに掲載しています。 <http://www.pref.osaka.lg.jp/toukei/hoken/index.html> 》

平成30年12月21日に、平成30年度学校保健統計調査速報（大阪府分）を取りまとめましたので、その概要を紹介します。

なお、この数値は速報値であり、後日（平成31年3月予定）文部科学省から公表される「学校保健統計調査報告書」の数値が確定値となります。

1 発育状態

(1) 身長・体重

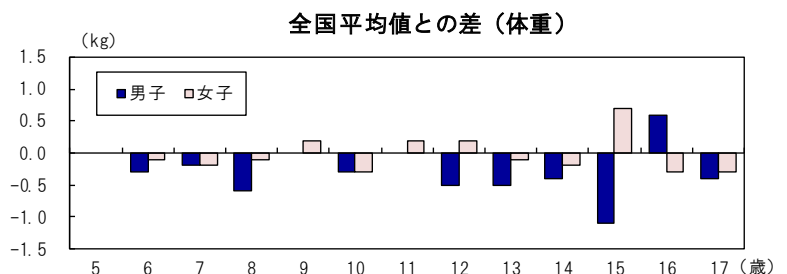
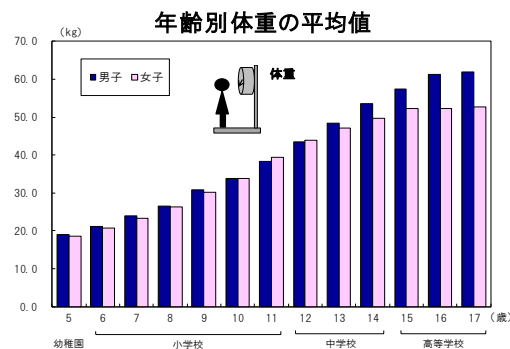
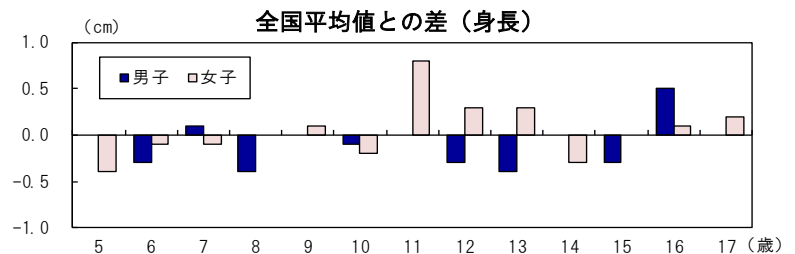
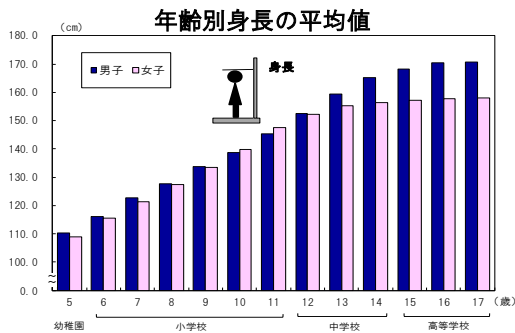
(ア) 全国との比較

身長は、年齢層によりばらつきはあるが、男子はやや低い傾向があり、女子は9歳以降でやや高い傾向がある

体重は、男女ともに全国平均値よりやや軽い傾向がある

大阪府の幼児、児童及び生徒の身長を年齢別に全国と比較してみると、男子は、7歳及び16歳以外のすべての年齢で、全国平均値と同じか低くなっています。女子は、9歳以降は全国平均値よりやや高い傾向がありますが、10歳及び14歳では全国平均値より低くなっています。

また、体重では男子は16歳を除くすべての年齢で全国平均値と同じか下回っており、女子は、9歳、11歳、12歳及び15歳を除くすべての年齢で全国平均値と同じか下回っています。



大阪府の身長・体重の平均値

	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
男子	身長 (cm)	110.3	116.2	122.6	127.7	133.7	138.7	145.2	152.4	159.4	165.3	168.1	170.6
	体重 (kg)	18.9	21.1	23.9	26.6	30.7	33.8	38.4	43.5	48.3	53.6	57.5	62.0
女子	身長 (cm)	109.0	115.5	121.4	127.3	133.5	139.9	147.6	152.2	155.2	156.3	157.1	158.0
	体重 (kg)	18.5	20.8	23.3	26.3	30.2	33.8	39.3	43.9	47.1	49.7	52.3	52.6

注) 年齢は平成30年4月1日現在の満年齢である。

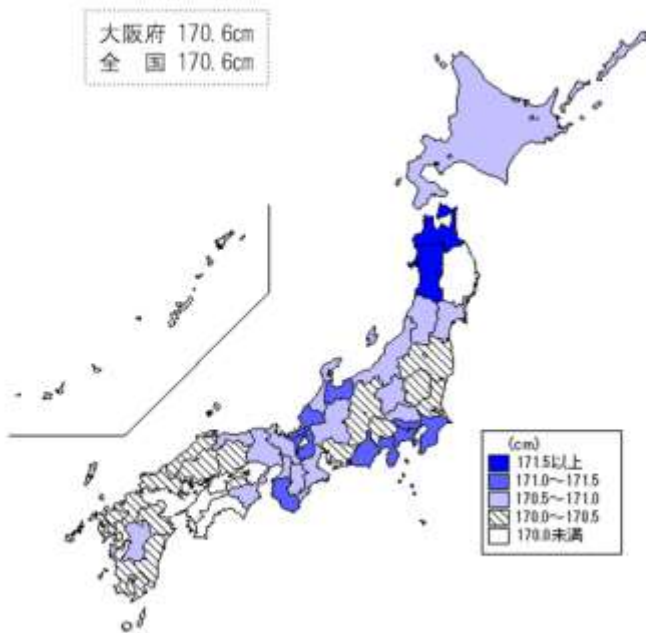
(イ) 都道府県別の比較 (17歳の平均値)

身長・体重ともに体格は、女子は東北・北陸地方が大きい傾向がある

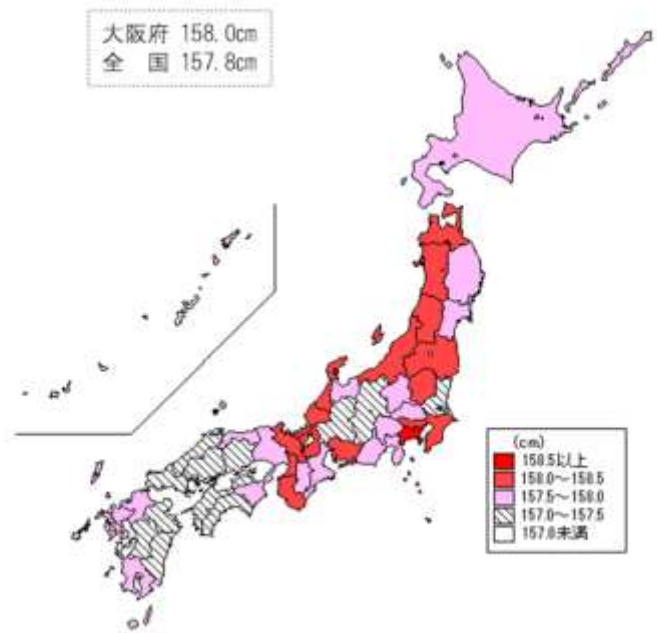
17歳の身長を都道府県別順位で見ると、男子は青森県が171.7cmで1番高く、次に秋田県が続く、大阪府は170.6cmで群馬県と同じ22番目、女子は神奈川県が158.6cmで1番高く、次に秋田県・山形県・滋賀県が続く、大阪府は158.0cmで13番目となっています。

また、体重では男子は秋田県が65.2kgで1番重く、次に青森県が続く、大阪府は62.0kgで35番目、女子は福島県が54.4kgで1番重く、次に秋田県・栃木県が続く、大阪府は52.6kgで山梨県と同じ37番目となっています。

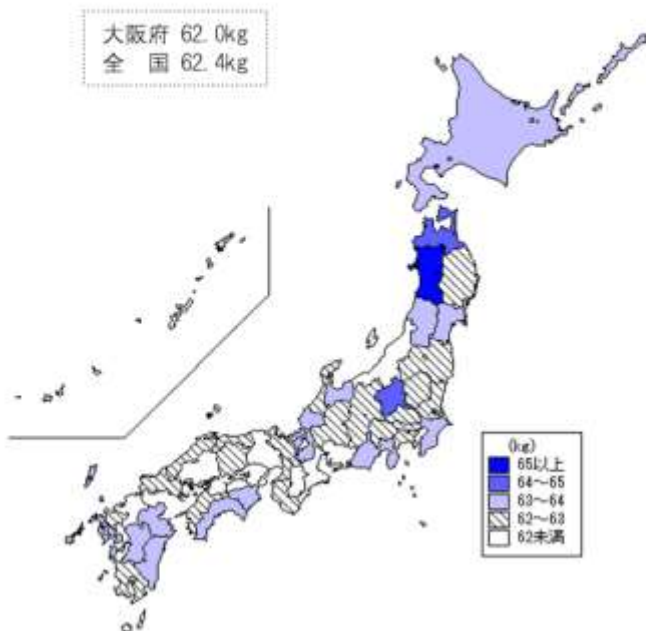
都道府県別身長の平均値 (17歳男子)



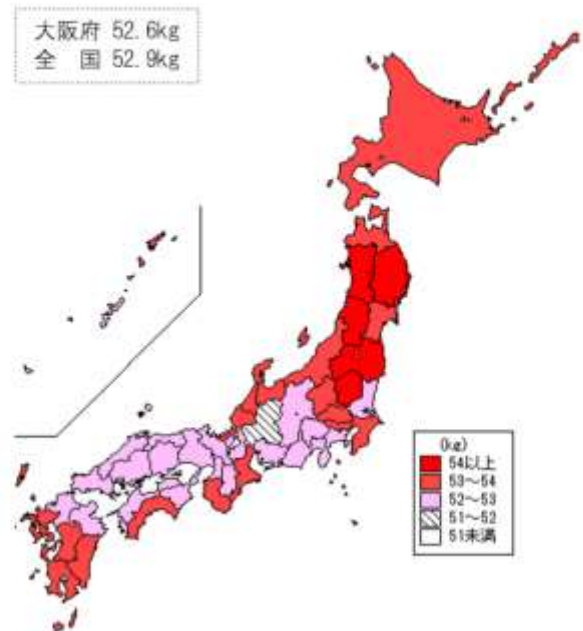
都道府県別身長の平均値 (17歳女子)



都道府県別体重の平均値 (17歳男子)



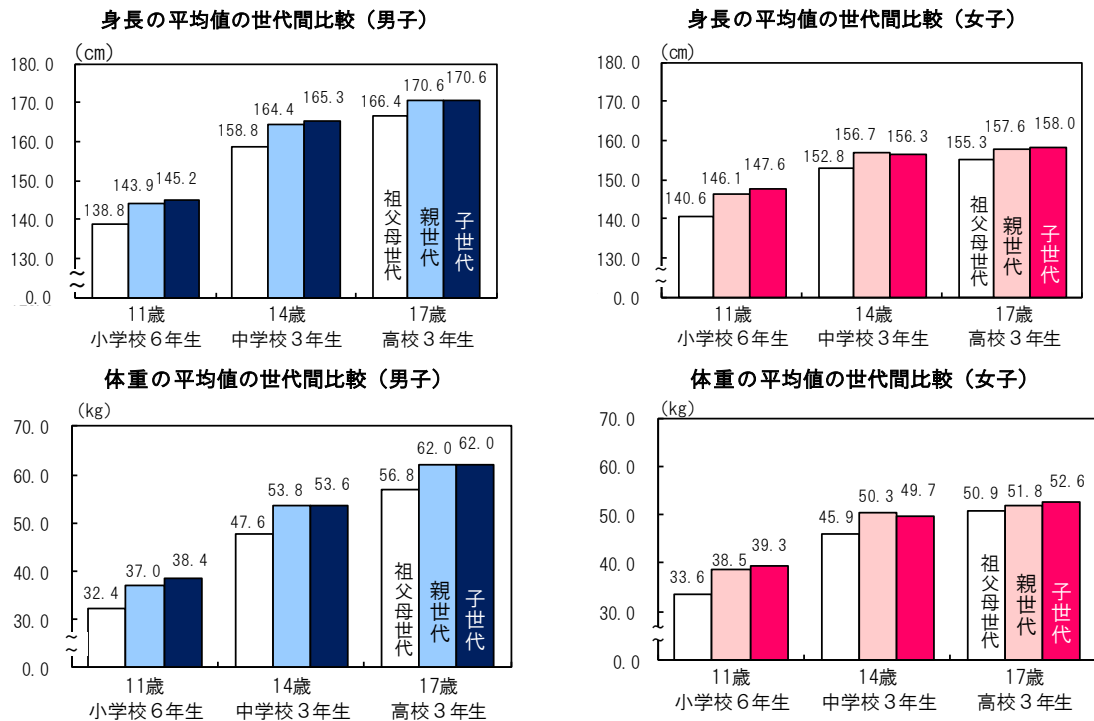
都道府県別体重の平均値 (17歳女子)



(ウ) 世代間の比較

「親の世代」と「子の世代」の間では増加の幅は小さい

「祖父母の世代（55年前）」、「親の世代（30年前）」、「子の世代」を比較してみると、全体的には「祖父母の世代」から「親の世代」は大きく増加しています。「親の世代」と「子の世代」の増加の幅は「祖父母の世代」から「親の世代」に比べ、小さくなっています。



(世代区分表)

世代	11歳 小学6年生	14歳 中学校3年生	17歳 高校3年生
祖父母世代 (55年前の昭和38年度当時)	昭和26年度生まれ	昭和23年度生まれ	昭和20年度生まれ
親世代 (30年前の昭和63年度当時)	昭和51年度生まれ	昭和48年度生まれ	昭和45年度生まれ
子世代 (平成30年度現在)	平成18年度生まれ	平成15年度生まれ	平成12年度生まれ

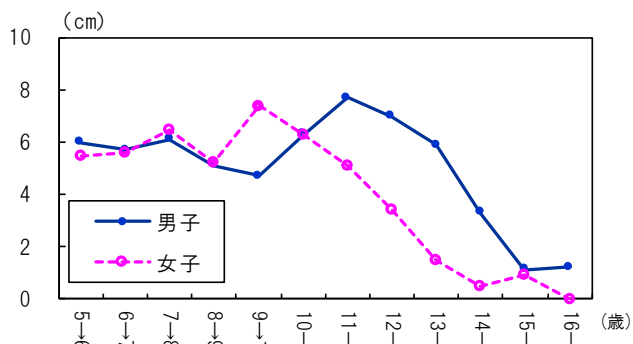
(2) 年間発育量

発育量が著しくなる時期は、女子の方が男子に比べ早い年齢となっている

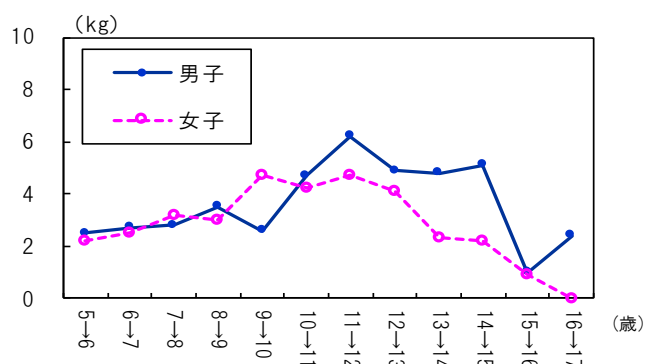
平成12年度生まれ（29年度17歳）の者の5歳時からの年間発育量をみると、身長の発育量は、男子では11歳から12歳にかけて、女子では9歳から10歳にかけて発育量が著しくなっています。

体重では男子では11歳から15歳にかけて発育量が著しくなっており、11歳から12歳にかけて最大の発育量を示しています。女子では9歳から13歳にかけて発育量が著しくなっており、9歳から10歳及び11歳から12歳にかけて最大の発育量を示しています。

平成11年度生まれ（29年度17歳）の年間発育量（身長）



平成11年度生まれ（29年度17歳）の年間発育量（体重）

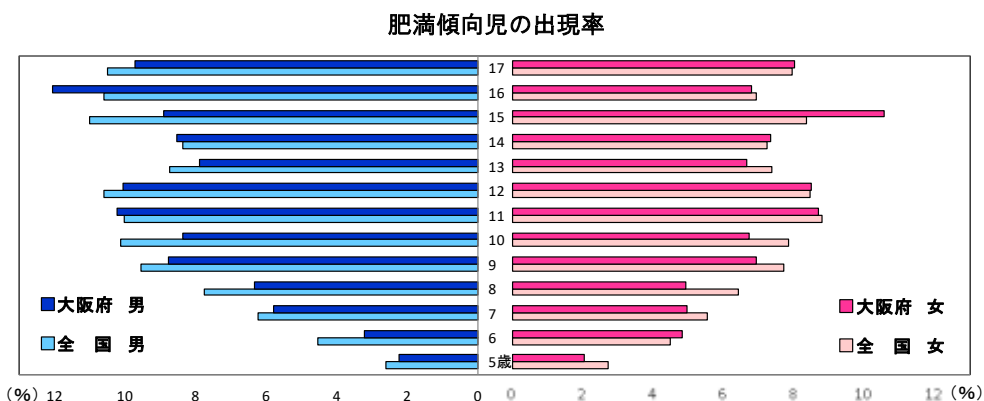


(3) 肥満傾向児の出現率

男女とも多くの年齢で全国平均より低い傾向がある

肥満傾向児の出現率(※)を年齢別に全国と比較してみると、男子は11歳、14歳及び16歳を除くすべての年齢、女子は6歳、12歳、14歳、15歳及び17歳を除くすべての年齢で全国平均値を下回っています。

(※) 肥満傾向児の出現率は、肥満度が20%以上の児童数の全体に対する割合〔%〕を推定しているもの。
 肥満度は、(実測体重〔kg〕－身長別標準体重〔kg〕)／身長別標準体重〔kg〕×100〔%〕として求める。



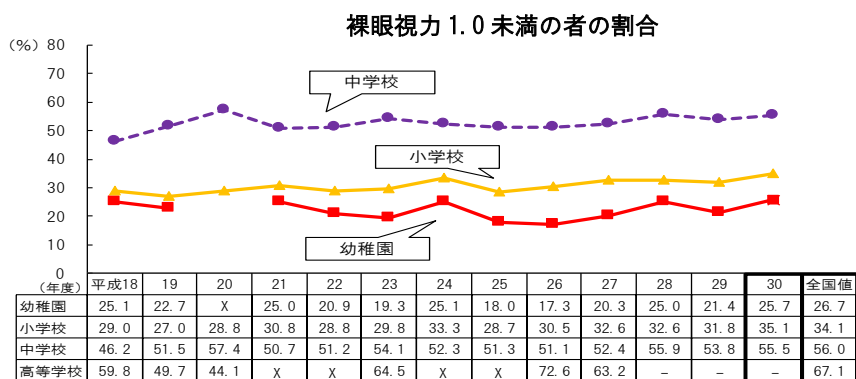
2 健康状態

主な疾病・異常等の被患率の状況

(1) 裸眼視力1.0未満の者の割合

幼稚園、中学校で全国平均値を下回り、小学校で全国平均値を上回っている

裸眼視力1.0未満の者の割合は、幼稚園25.7%、小学校35.1%、中学校55.5%となっており、幼稚園及び小学校では平成18年度以降過去最高となっています。



*1) 幼稚園には幼保連携型認定こども園を含む。
 *2) 「-」は計数が無い場合で、高等学校は眼鏡やコンタクトレンズで視力矯正をして測定しているため、裸眼視力での調査データが無い。
 *3) 「X」は標本サイズが小さい等のため、統計数値を公表しない。

(2) むし歯(う歯)の者の割合

幼稚園、小学校、中学校及び高等学校のすべてで全国平均値を上回っている

むし歯(う歯)の者の割合は、幼稚園37.6%、小学校48.7%、中学校36.4%、高等学校46.5%となっており、中学校及び高等学校では平成18年度以降過去最低となっています。

